

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書（平成26年度）

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成	申請大学名	お茶の水女子大学
申請大学長名	羽入 佐和子		
プログラム責任者	河村 哲也		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体として、運営体制・学内規定等の整備、および本プログラムに参画する学生が自らチームを作り、新たな課題を設定しそれを自主的に解決する PBTS (Project Based Team Study) のための設備・スペースの確保や、上記 PBTS の活動支援と学生メンターを行うスタディコモンズ支援グループの立ち上げなど、学生の学修教育環境の整備が確実に行われている。</li> <li>申請時に掲げられた計画の中で、リーディング大学院アドバイザリーボードやリーディング大学院学内評価委員会等の評価に関する活動に一部遅延が認められるが、プログラム担当教員の採用が積極的かつ着実に進められている等、概ね順調に実施されている。本プログラムの運営組織であるリーディング大学院推進センターを設け、今後全学的な取り組みによって、基盤力・チーム力・グローバル力を持った即戦力としての女性リーダーの養成が期待される。</li> <li>一方、コースワークについては、本プログラムのために新たに設置された科目群の講義が英語で開講され、分野の異なる学生の学修基盤に配慮した教育がなされているが、副専攻科目として開講する科目のシラバスの検討と具体化がやや遅れているように見受けられる。</li> <li>学生受入のためのアドミッションポリシーや選考方法、選抜基準・評価方法は明確であり、高い意欲を持つ学生を選考している。特に、社会人特別入試などを活用し学び直しの学生を積極的に受け入れるという方針は、多様な女性人材の育成の観点からも高く評価できる。</li> </ul> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本プログラムの趣旨は、専門分野の深い知識と研究能力に加えて、広い分野の知識・教養とグローバルなマネジメント能力をもつリーダー養成であるが、主専攻科目の履修、学位論文の研究活動に加えて、本プログラムのコースワークと PBTS、研究室ローテーション、海外研修への参加等、学生が学ばなければならない内容が非常に多い。内容の精選、達成度の明確化、オリエンテーションの実施等により、学生の負担が過度にならないような配慮が必要である。</li> <li>PBTS の実施により、分野の異なる学生がチームとして自主的にプロジェクト研究に取り組むことによって、主体的な課題解決力やマネジメント能力が養われることが期待される。しかし、学生の提案から具体的なテーマへ絞り込む方針や手順および副論文として求める水準等を早急に明確にすることが必要である。</li> <li>採択時の留意事項であった「女性ばかりでなく男性の中で切磋琢磨できる環境づくり」については、単発的なイベントではなく、日常に近い環境でプログラムに参画する学生が他大学等の若手研究者や大学院学生らと専門の研究を通じて交流を行うことで、グローバルな視点を有するリーダーとしての能力を高めて欲しい。</li> </ul>			

- 当初計画の受け入れ定員に比べて第 1 期生の入学者数が少ないが、定員数の厳格な確保よりも能力のある学生を選抜する努力と質の高い教育に注力をして欲しい。特に学生の日常的な学修や研究活動における問題や悩みを身近に相談できる若手メンターを充実させることが望まれる。
- プログラムに参画する学生の一部に、主専攻の指導教員の理解が十分に得られていない様子が見受けられた。プログラムの趣旨に対する全学的な理解の徹底と内容の共有化を図ることが必要である。